

術後リンパ浮腫に対する当院の取り組み ～院内研究会の立ち上げ～

長島 千里 木部真由美 望月 康子 佐藤みつ子
 杉山美智子 山本 奈々 鈴木 直子 島村登記子
 筒井ゆかり 洞口 雅代 赤堀 幸子 広瀬 美樹
 清水ちえ子 池ヶ谷恵子 宮部 理香 市川 義一

静岡赤十字病院 リンパ浮腫研究会

要旨：当院ではリンパ浮腫に対し、各科・病棟・外来で各々に対応してきていたが、リンパ浮腫の病態や治療に対する知識の統一を目的に、院内リンパ浮腫研究会を立ち上げた。このことでより一貫した予防教育指導と発症時の日常生活指導とすることができた。

Key words：リンパ浮腫, チーム医療

I. はじめに

婦人科癌術後・乳がん術後の上下肢のリンパ浮腫は患者のQOLを著しく損なう術後合併症であり、発症を予防する日常生活指導、セルフケア指導がQOLの維持に重要となる。当院では、リンパ浮腫の病態や治療に対する知識の統一を目的に、院内リンパ浮腫研究会を立ち上げ、予防教育指導と発症時の日常生活指導にあたっている。当院のリンパ浮腫研究会の立ち上げと、現在の活動について報告する。

II. 当院における活動の経緯

2010年～婦人科：病棟内リンパ浮腫チーム

2010年～外科：プレストケアチーム

2010年11月、婦人科・外科両チームの合同のミーティングにて日常生活指導の共通化について検討

2011年10月、乳癌患者アンケート施行（第48回日赤医学会総会にて報告）

2012年5月、リンパ浮腫研究会設立に向けての検討会開催：メンバー：医師（外科・婦人科・泌尿器科・血管外科）看護師（外科、婦人科、泌尿器科、化学療法センター）リスクマネージャー、理学療法士、メディカルクラーク、医

事課

院内でリンパ浮腫予防教育の統一化をはかり勉強会の継続的開催により知識と情報を共有するここでリンパ浮腫研究会として活動開始となる。

2012年11月、4名がリンパ浮腫療法士取得

2013年4月、院内共通のパンフレットを用いた指導開始。電子カルテ上にリンパ浮腫のテンプレート作成し病期分類に基づくアセスメント運用開始。

現在は定例会にて症例検討・情報交換・勉強会などを行っている。

III. まとめ

5年間の活動を通して、リンパ浮腫予防指導教育の基盤を作成してきた。各科、また外来・病棟の垣根を越えて、院内で十分なリンパ浮腫予防教育を施行できるシステムを構築できた。病棟と外来の一貫した指導を行えるような体制ができ、患者理解の向上につながった。

現在リンパ浮腫発症者に関しては主治医より依頼を受け、月10人程度の患者をリンパ浮腫療法士が評価、日常生活再指導・セルフドレナージ指導・

圧迫療法指導を行っている。用手的ドレナージや弾性包帯法は施行していない。化学療法センター所属のリンパ浮腫療法士1名のみが指導にあっており、負担が集中している。終末期患者の浮腫治療は個々の症例により対処法が異なるため症例の経験を共有し、検討を続けている。

IV. 今後の課題

勉強会などを継続して行い、スタッフのレベルアップに努めること。リンパ浮腫療法士の適切な配置・業務調整により、充実した内容の患者指導を行える体制を構築することがある。また緩和目的の浮腫治療についても事例を重ね、更なる検討を行いたい。